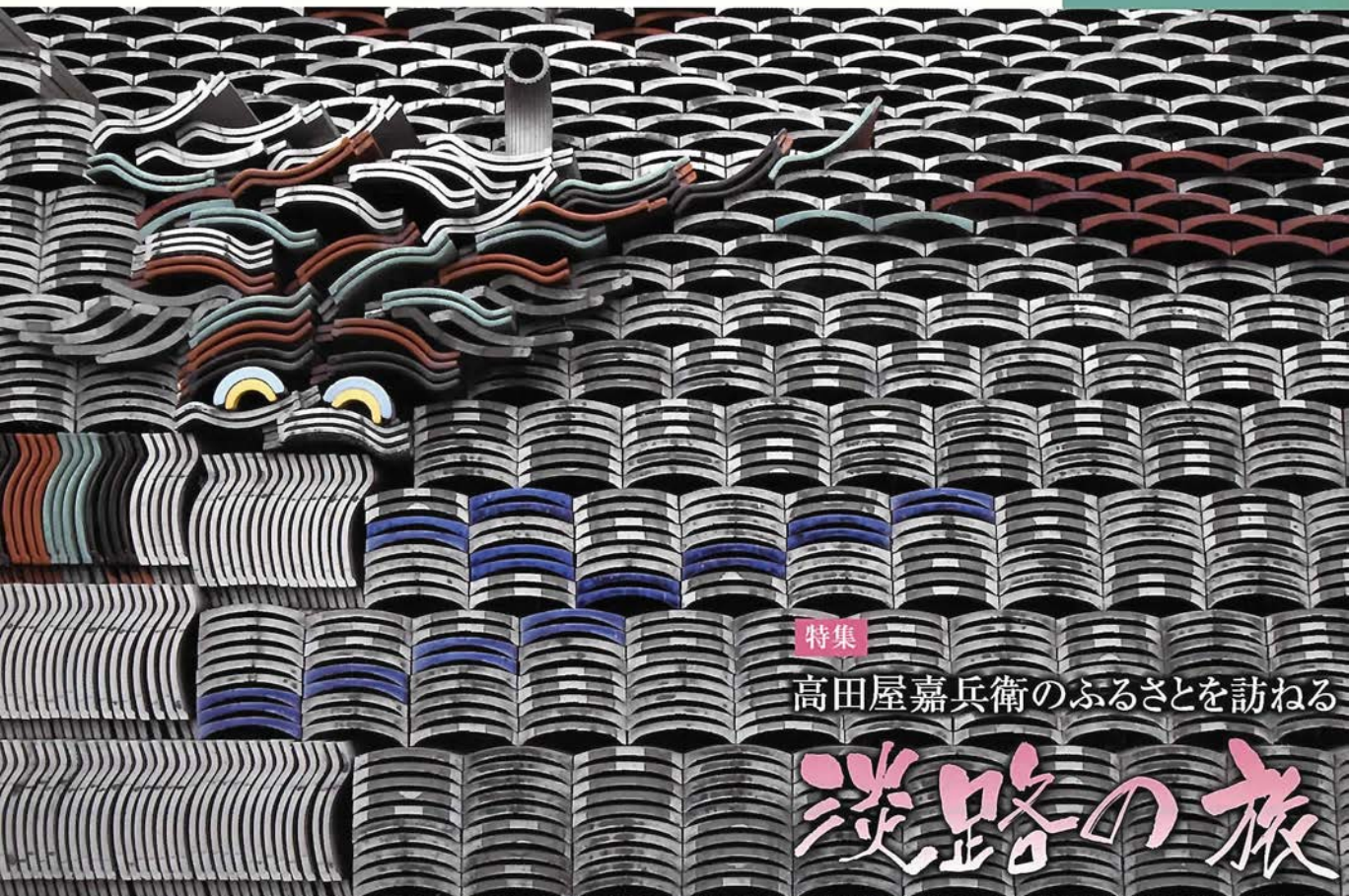


KOBEを愛して47年／月刊 神戸っ子

2008年4月1日発行 第7巻 第3号
通巻359号 昭和40年1月20日 第三種郵便物許可

KOBECCO

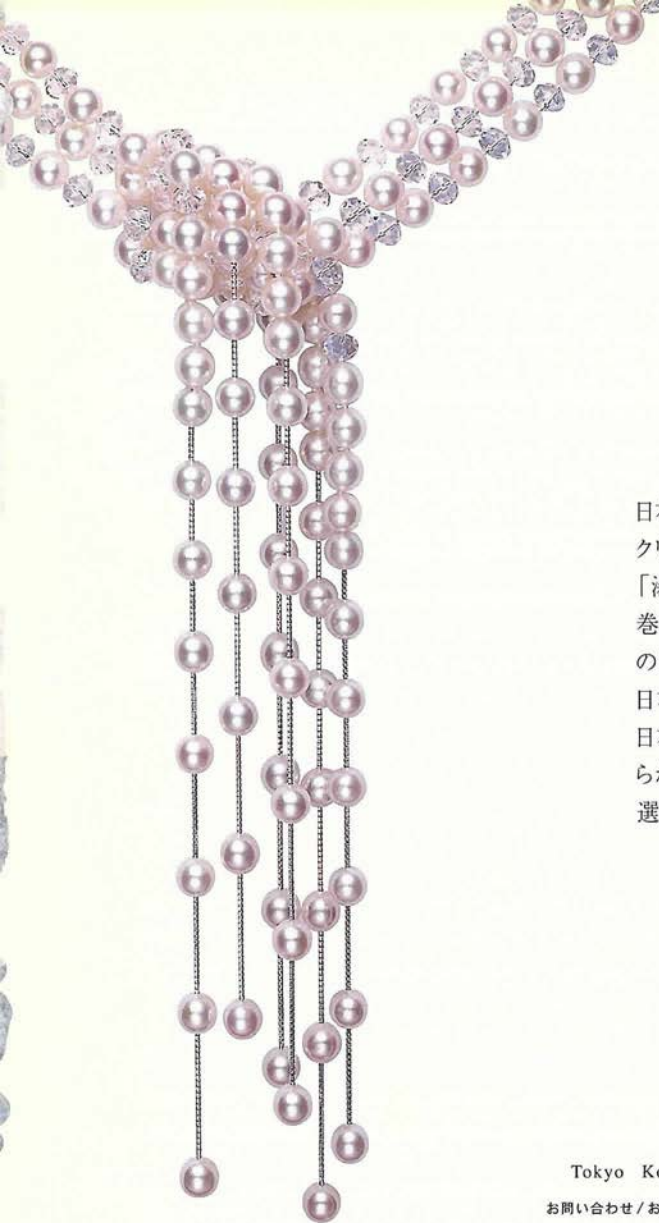
4 2008
April
vol.559



特集

高田屋嘉兵衛のふるさとを訪ねる

淡路の旅



日本の様式美から生まれたネックレス

DESIGNED BY TASAKI

BAKUFU 瀑布

日本が誇るアコヤ真珠をふんだんに用い、カットを施したクリスタルと組み合わせた、ラリエットタイプのネックレス「瀑布 (BAKUFU)」。

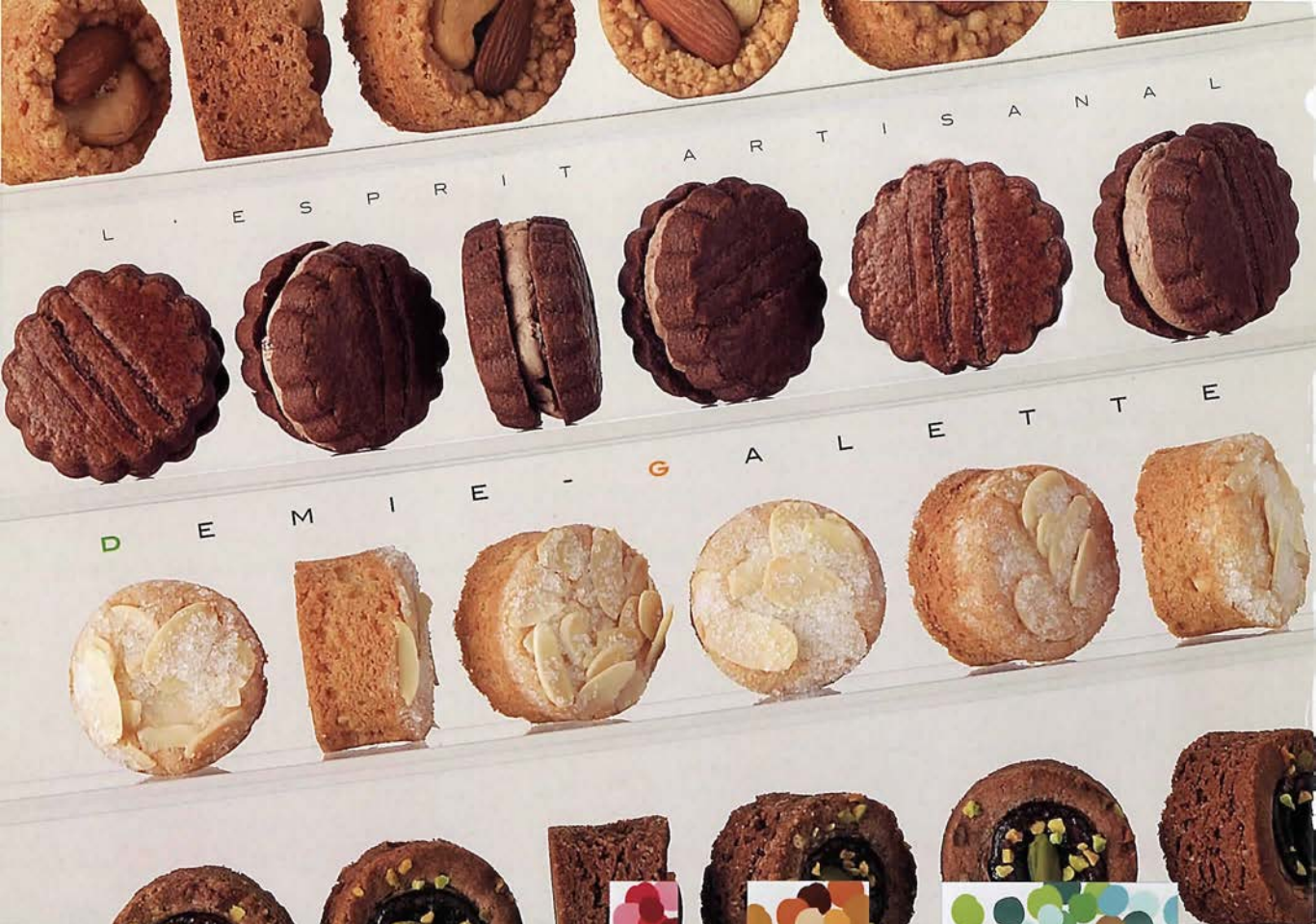
巻く、結ぶといったつけ方で、装いに合わせて自分好みの多彩なスタイルを楽しめます。

日本の様式美をコンセプトにして作られた「瀑布」は日本が誇るブランドを世界にアピールするために設けられた「新日本様式」100選に、ジュエリーで唯一選出された新感覚のネックレスです。



Tokyo Kobe New York Antwerp Hong Kong Beijing Shanghai Taipei

お問い合わせ / お客様サービス窓口 ☎0120-111-446 (受付時間 平日9:00~17:00) www.tasaki.co.jp



ドゥミ・ガレット **NEW**

コロッとまるくて香ばしい4つの美味しさ。
 楽しい顔ぶれに、ヨーロッパ伝統のレシピが生きる
 プティサイズのガレット。

- ショコラ・フランボワ
- アーモンド
- ショコラ・クリーム
- クランブル



DE-5 4個入
 税込 ¥525 (本体価格 ¥500)

DE-10 8個入
 税込 ¥1,050 (本体価格 ¥1,000)

DE-20 16個入
 税込 ¥2,100 (本体価格 ¥2,000)



MOOMIN

現在、私たちが知っているムーミンは 1945 年のフィンランドのトーベ・ヤンソンによって描かれました。作者曰く「電話帳くらいの大きさ」だそうで、妖精のような想像上のものではなくどこかに実際に「存在するもの」として位置づけられています。決してカバではありません。

取り扱っております。詳しい shop 情報は <http://www.flis.co.jp/>

フレンステッドモバイル



モバイルとは、いくつかの紙や金属板などを糸、針金で吊るし、それぞれバランスを保ちながら微妙に動くよう構成した芸術作品であり、デンマークに古くから伝わる伝統工芸です。お部屋の空いている空間を美しく彩ってくれます。

バルーン 3 ¥2,677

デンマークショップ April news !!

デンマークショップでは、食器やバッグ、ムーミングッズや木製玩具など、北欧のグッド

デザインを中心に様々な雑貨を取り揃えております。

また、今春はフィンランドのテキスタイルブランド・マリメッコの新作を続々と入荷中です！

数量限定のものもございますので早めにも！！



cushion cover : ¥5,250 tray : ¥3,990
towel : ¥3,990 magnet : ¥1,050

DENMARK



デンマークってどんな国?? デンマークは、中央ヨーロッパから北に突き出した半島と多くの島々で構成されており、とても小さな国です。しかし、さまざまな文化を吸収し、独自に構築されたデザインやプロダクトは 1950 年代以降世界中に多大な影響を及ぼし、長い時を経た今もなお愛され続け、新たなファンを増やしています。

デンマークの子供たちの好きな食べ物は?

にんじんとレバーパテ！日本のにんじんと違って甘い味のにんじんを子供たちはまるまる一本普通に握って、生のままカリカリと食べているそうです。レバーパテは、マーガリンのようにパンに塗って食べるようですが、一応レバーなので味にクセがあります。それを好んで食べている子供たちはそのおかげでみんなあんなに大きな体に成長するのでしょうか…??





北欧の家具・雑貨売り場の他にキッズルームやカフェスペースも。



神戸大丸の北斜前、三宮神社東隣。赤と白のデンマーク国旗の屋根が目印！

PLACE：神戸市中央区三宮町 2-4-1

TEL：078-327-2645

OPEN：11時～19時（水曜不定休）



ご紹介の商品は全てショップにて

ARABIA



Gift box 付

ムーミンマグシリーズ

フィンランドを代表するテーブルウェアブランドとして機能性とデザイン性、そして品質の高さで知られるアラビア社が同じくフィンランド生まれのムーミンとコラボレーションして生まれたムーミンマグシリーズ。原作者トーベ・ヤンソンの原画の雰囲気があるまま再現されています。

1個ずつムーミンのイラスト入りの箱がつくのでプレゼントにおすすです。

各¥3,150

ムレスナティー

ギフトセットはご予算に合わせて。



スリランカのムレスナ社で製造されるムレスナティーは、日本人の味覚に合うようにブレンドされており口当たりがよく、天然香料を使用しているので体に優しく香りも味も大変豊かな紅茶です。お土産やプレゼントにも最適です。キューブボックス：¥651・リーフ缶：¥1,260

大人気！



キャラメル
クリームティー

キャラメルの香りがかもし出すほのかな甘みと香ばしさ。ストレートでもおいしく頂けますが、ミルクとの相性が抜群！ ¥651

山田脩二 (カメラマン・^{カワラマン}淡路瓦師)



1939年、西宮市生まれ。1962年、フリーカメラマンとなる。20年間、主に建築・美術など造形的な写真を撮り続け、多くの雑誌にとりあげられた。1982年職業写真家に「終止符を宣言」して淡路島の瓦生産地集落・津井で粘土瓦の製造に従事する。1984年フリーカメラマンとなり、瓦のデザイン・企画・製造・販売のために、株式会社「山田脩二・淡路かわら房」を設立・主宰。自作の敷瓦で景観への問題を提起し続けている。2000年「山田脩二のかわらの使い方」により「グッドデザイン中小企業庁長官特別賞」受賞。「現代日本15人の写真家展」(1974年、国立近代美術館)、「山田脩二の軌跡-写真、瓦、炭...展」(2006年、兵庫県立美術館)など、国内外において多数の展覧会を開催。2007年「織部賞」受賞。

私が、日々、明け暮れしているこの国には、仕事、物事を地道に精進を重ねる真摯な、この道、一筋の生き様、姿、技能などが高い評価を受け、尊敬・表彰される風潮があります。が、この道は、寄り道、回り道しながら、三筋、四筋…と渡り歩くのも結構…と、私は思い続けています。

22才頃から20年間、カメラマンを、42才から日本有数の瓦製造地集落の淡路島・津井に転地・転職して淡路瓦師(カワラマン)に自らなりました。

若い頃から全国津々浦々を粹狂で酔狂な旅を繰り返し、銘走・酩酊の終わらない道草だらけの旅が続く今日この頃です。



1963年撮影。ひと夏の旅(愛媛県-佐田半島)



1961年撮影。東京-渋谷



写真上、1995年作。淡路島・津井(瓦コバ立ての小庭とスキ) 写真下、1999年作。南あわじ市 「瓦の青海波ピラミッド・モニュメント」

フロントアート

The front art



石阪春生 「古いカバンと洋梨」1997年50S

8 特集

淡路の旅



- 10 高田屋嘉兵衛を思う 新井 湧
- 12 豊かな風土資産に恵まれ、
日本人のルーツが息づく島・淡路を語る
座談会
琴井谷惠民(高田屋嘉兵衛翁顕彰会会長)
武田信一(淡路文化協会会長)
本名孝至(伊弉諾神宮宮司)
山田脩二(淡路瓦師)
榎本靖子(匠家 おかげ庵)
- 17 高田屋嘉兵衛の故郷を訪ねる 高田耕作
- 20 チューリップアイランドパーティ2008
- 22 ようこそ花と緑の楽園へ
- 24 淡路に泊まるおすすめのホテル
・ウエスティンホテル淡路・ホテルニューアワジ・夢泉景・プラザ淡路島・淡海荘
- 32 明石海峡大橋開通10周年
- 34 淡路おでかけスポット ・北淡震災記念公園・バルシェ香りの館
- 36 豊かな「宝の島」だからできること 岩坪眞弘 大僧正
- 38 高野山真言宗 蓮台山 八浄寺
- 40 関西総合リハビリテーション専門学校
- 42 匠家 おかげ庵
- 44 花バス運行
- 46 淡路おでかけMAP
- 4 ART LEGEND / 山田脩二
- 6 FRONT ART / 石阪春生
- 48 2008ファッションフェア～スバイラル～神戸ファッション専門学校
- 50 世界を目指した神戸商人たちの足音が聞こえる インタビュー / 玉岡かおる



- 54 姫路菓子博2008
- 56 イベントスケジュール
- 60 KOBECCO 2008 福原悟史 中山三奈
- 62 美しい街で美しい仕事を② 高橋泉 株式会社レックC.E.O.
- 64 ハンガリーに魅せられて
- 68 アニー・キャロルの部屋へようこそ⑥
- 70 くらしと健康 神戸市医師会公開講座⑮こう変わる高齢者医療—後期高齢者医療制度
- 72 でん太の教えてドクター⑤
- 74 風さやか / 歌謡フェスティバルin名古屋
- 76 <連載>おもしろ浮世絵講座・江戸人の遊び心⑩ パロディ寄せ絵・恋という獣 中右珠
- 78 <連載>海船港 「瀬戸内海クルーズの魅力」を語る 上川庄二郎
- 80 <連載> 漫画 情熱の洋菓子職人 比屋根毅物語④ 佐藤晴美
- 90 <連載>コーヒークップの耳⑧ 文・出石アカル 絵・菅原洗人 題字・六車明峰
- 92 <連載>神戸異人館物語 夜明けのハンター⑳ 文・三条杜夫 絵・谷口和生
- 98 耳よりKOBE カミネ・旧居留地店オープン / 宮澤賢治の童話で春を味わう /
KOBE WINE EXTRA誕生! / KOBEARグッズ誕生!
- 102 KOBECCOグルメ
- 111 法人会員ニュース
- 108 百店会だより / 北野クラブ ソラ
- 130 Kitano Hot News
- 132 有馬歳時記 / 第五回「有馬ならでは」創作料理・土産コンテスト /
有馬山叢 御所別墅が誕生!
- 138 コウベスナップ
- 140 KOBECCO47周年記念パーティ
- 142 定期購読のご案内・編集後記
- 143 Present
- 144 2008年4月の貴方のby天城鳳月
- 145 湊川神社 宝物殿を訪ねて④ / 平樹田中「大楠公像」
- 今月の表紙 南あわじ市:瓦の青海波ピラミッド(山田脩二)
撮影 / スタジオブロックス

特集

高田屋嘉兵衛のふるさとを訪ねる

淡路の旅

春つららか、行楽シーズン。1998年に、世界一の吊り橋として開通した明石海峡大橋は、本年4月、開通10周年を迎えます。この季節、麗らかな春の陽気に誘われて、この世界一の吊り橋を渡り、国生みの島、御食国、花咲く島「淡路」を訪ねてみてはいかがでしょうか。また、淡路が生んだ最大の偉人・高田屋嘉兵衛の足跡と共に、ゆかりの地を訪ねてみましょう。

CONTENTS

- 10～11 高田屋嘉兵衛を思う 新井満
- 12～16 豊かな風土資産に恵まれ、
日本人のルーツが息づく島・淡路を語る
琴井谷惠民さん 高田屋嘉兵衛翁顕彰会会長
武田信一さん 淡路文化協会会長
本名孝至さん 伊弉諾神宮宮司
山田脩二さん 淡路瓦師
榎本靖子さん 匠家 おかげ庵
- 17～19 高田屋嘉兵衛の故郷を訪ねる 高田耕作
- 20～21 チュールリップアイランドパーティ2008
- 22～23 ようこそ花と緑の楽園へ
- 24～31 淡路に泊まるおすすめの前宿
・ウエスティンホテル淡路・ホテルニューアワジ・夢泉景・プラザ淡路島
・淡海荘
- 32～33 明石海峡大橋開通10周年
- 34～35 淡路おでかけスポット 北淡震災記念公園・バルシェ香りの館
- 36～37 豊かな「宝の島」だからできること 岩坪眞弘 大僧正
- 38～39 高野山真言宗 蓮台山 八浄寺
- 40～41 関西総合リハビリテーション専門学校
- 42～43 匠家 おかげ庵
- 44～45 花バス運行
- 46～47 淡路おでかけMAP



高田屋嘉兵衛公園



伊弉諾神宮



明石海峡大橋

高田屋嘉兵衛を想う

新井満
(作家)



高田屋嘉兵衛とロシアのコローニン。日露友好の碑の前で

ギリシヤのある哲学者のことばに、『人間には三種類ある。一番目は死んでいるもの、二番目は死んではいないがただ生きているだけのもの、そして三番目が海に向かって旅立つもの』というものがあります。

高田屋嘉兵衛はこの三番目、海に向かって旅立った代表的な人物です。

おだやかで豊かな淡路島。ここに留まれば、平穩

で平和な毎日をご過ごすこともできたでしょう。しかし彼は、敢えて自分を縛り付ける環境から自らを解き放ち、船を操りまさに大海原へと漕ぎ出していった。海とはすなわち希望であり、野心であり、夢であり、理想であり、生きる目的なのです。そんな彼の生き様に、私は心から惹かれます。

嘉兵衛は、偉大な功績を残しました。商人として豊かな才能を発揮し、北前船で財をなしただけで



菜の花咲く高田屋嘉兵衛公園の坂道で

はありません。彼は未開の地である蝦夷地を開拓し、択捉へ国後へと北洋の航路を切り拓いたので。さらに北方貿易を通じロシア政府に捕らえられ拘束されるといふ憂き目に遭いながら、ロシアの立場にも深く理解を示し、人として正しいことは国を超えて伝わるという信念を持って、日露関係の改善に心を砕きました。江戸時代の偉人の中でも稀にみる、世界的なスケールの視野を持った

人物だったのです。

そして、嘉兵衛の素晴らしいところは、私財を借しまず社会貢献にも尽力したこと。函館の街の都市計画の基礎をつくり、函館大火の折もずいぶんと支援をしたようです。ですから、函館では大恩人として、街の人々に今でも深く敬愛されています。私がテーマソング「星の街函館」を作曲した函館野外劇は、嘉兵衛をはじめ、未開の地・北海道を切り拓いた人たちへのオマージュですが、このミュージカルには毎年5千人もの観衆を集めることから、その人気ぶりが伺えます。

函館の熱の入れようと比べると、故郷の淡路での嘉兵衛の扱いは少し寂しいような気がします。淡路でも昨今、嘉兵衛の偉業を讃えるさまざまな活動がおこなわれているようですが、函館の熱意の方が勝っているのではないのでしょうか。

嘉兵衛は晩年、故郷に戻り、私財を提供し港の整備に尽力しました。財をなした人は多々いるけれど、故郷に恩返しをした人はなかなかいない。だからこそもう一度、彼の功績を見つめ直すことが大切だと思います。

そこでひとつ、提案があります。町おこしに高田屋嘉兵衛文化賞といったものを創設してはいかがでしょうか。この賞が海に向かって旅立つ人にとって羅針盤となれば、そして淡路を盛り上げる帆風となれば、社会に貢献し故郷を愛した嘉兵衛も、きっと喜んでくれるでしょう。

菜の花の季節にまた、高田屋嘉兵衛のふるさとを訪ねてみたいと思います。

豊かな風土資産に恵まれ、 日本人のルーツが 息づく島・淡路を語る

神戸と「明石海峡大橋」で
結ばれて10年。
とても近くなった淡路島。
でも、意外と知らない淡路島のこと、
生まれ育った、移り住んだ、
Uターンした…、
それぞれの立場から
5人の皆さんに淡路島について
お話しいただいた。

琴井谷恵民さん
高田屋嘉兵衛翁顕彰会会長

武田 信一さん
淡路地方史研究会会長

本名 孝至さん
伊井諾神宮宮司

山田 脩二さん
淡路瓦師

榎本 靖子さん
匠家 おかげ庵

《順不同敬称略》



榎本さん

山田さん

本名さん

武田さん

琴井谷さん

海に向かって旅立つ 人を育てる風土

—今、皆さんが感じていらつしやる淡路の魅力や課題についてお話しください。

武田 淡路は自然環境、歴史、文化、言語など我々の周囲にあるものの、「風土資産」が豊かな土地です。お金や物だけでなく、これらを財産の一つとして捉える考え方。それを住む人たちが理解し、どう活用していくかが課題ですね。

本名 全国各地にある神話といわれる伝承は、私たちの祖先が残してくれた資産です。九州高千穂、出雲、そして淡路島が主要3カ所ですが、その伝承が形として残っているのが伊弉諾神宮。遺跡ではなく、3千年も昔からの宗教施設が同じ場所と同じ民族によって、同じ思いで祀り続けているのは、世界の宗教レベルで考えても例を見ないことだと思えます。全国約79,800の神社のうち、兵庫県には3,836社があり、そのうちの約400社が淡路島です。同じ数のお寺もあります。これだけの

信仰が、今に伝えられてきたのです。まさに日本人のルーツです。淡路島がアピールできる点だと思えます。

山田 私は建築と風景の写真を中心に撮っていましたが、「日本の景観を守るには、『麓の波』の瓦しかない」と、25年前、42歳にもなつて、瓦を作りに淡路島に来ました。ところが、どうも淡路の瓦屋さんたちのやっていることには納得がいかない。ガスで焼き、銀色にテカテカ光った瓦を、地場産業活性化のためにと安く大量に売り、「淡路は瓦の生産量日本一」と誇っています。その張本人が、瓦がのっていない、新素材の家に住んでいたりするんですからね（笑）。せっかく淡路島の貴重な土を焼かせてもらっているのに、風土の恩恵を無駄にしています。ナンバーワンでも、オンリーワンでもない…。淡路は海に囲まれた島なんですから、独自のものを作るべきです。誇りを持つてほしいですね。

榎本 私と淡路島との出会いは昭和45年ごろ。魚釣りに来て、

美味しいお魚を食べさせてくれる風土に感動しました。そして、震災で西岡本の家が倒壊し、それまでの経済優先の生活を考え直し始めたころ、平成10年、当時は廃屋、今の「匠家おかげ庵」に出会いました。江戸時代後期に建てられた麓のあまりの美しさに、しばし佇みました。それまで、淡路は観光地だと思っていました。里山の美しさは日本人の心の故郷だと感じました。すばらしい文化があります。私が子どもの頃には大きな存在だった神さまがいます。未来の子どもたちを育てる風土があります。ところが、島民の皆さんは素晴らしさに気付かず、誇りを持っておられない。そこで私は、島民あげて盛り上げていくための提案をさせていただきます。

—その風土が豪商・高田屋嘉兵衛や作詞家の阿久悠さんを育てたのです。

琴井谷 阿久悠は同級生です。ね、彼が亡くなったとき、私も

「作詞家・阿久悠の原点を探る」という取材を受けました。小学生の頃、家が向かい同士で、毎日一緒に遊んでいましたから「原点はここです。何もない所ですよ」と案内しました(笑)。一つ覚えてるのは、彼は都会に憧れ、「ここから必ず出て行く」と常に言っていたことです。「神戸っ子」で五色町を歩いた新井満さんが、うまいこと表現していらした。「高田屋嘉兵衛は海に向かつて旅立つ者。海イコール夢」。阿久悠もわかり。高校を卒業するのを待ちかねたように東京へ旅立ち、大成しました。淡路には、高田屋にならえと、昭和初期に海運業を始めた人たちや、五島列島へ鯛を取りに行った漁師がいました。彼らも夢を持ち旅立った人たち。歴史的にそういう風土があったのでしょうか。残念ながら、阿久悠がその最後の人でしょね。

本名 函館の人は「嘉兵衛さん」と呼びますが、淡路では「高田屋嘉兵衛」と呼び捨てです。尊敬の念が足りないように思いますが……。

琴井谷 その背景には、生活権での争いがあります。私も子どもの頃、「嘉兵衛は、おふさを連れて新在家から逃げた。けしからんヤツや」と爺さんから聞かされていました。そりゃあ、マドンナを連れ行つてしまったのだから、穏やかじゃない(笑)。新在家、大浜は、それぞれに漁師町です。網元、若衆宿があり、浜と浜の対立がありましたから、嘉兵衛さん自身が「立派な人、つまらない人」というのとは少し違った意味合いがあります。

本名 幕府も脅威を抱いたほどの人物ですからね。

琴井谷 それを全国の人たちに知ってもらえたのは、司馬遼太郎さんのおかげです。地元でも最近では、「高田屋嘉兵衛翁」と呼ぶようにしています。



日本最古の神社として知られる伊弉諾神宮

歴史ある淡路の文化、風土を子どもたちに伝える

—淡路の活性化に必要なことは何だとお考えですか。

武田 私は高校で日本史を担当していましたが、淡路の子どもたちに歴史を教えるには、まず自分自身が淡路を学ぶことが大



日露の友好に尽力した高田屋嘉兵衛(右)とリコルト

切だと考え、淡路の歴史を勉強してきました。日本地図を開いてみると、淡路島は日本列島の中央部にあり、奈良、京都、大阪の近くに位置しています。「隔離された島国」とよく言われますが、それは陸上交通が発達した明治以降のこと。船が最も便利な交通手段だった頃、海に囲まれた淡路島は交通の要所でした。盛んに入出入りする文化を取捨選択しながら、先人たちは自分たちに合った独自の文化を築きました。この歴史の素晴らし

さを、子どもたちに伝えなくてはなりません。

本名 神道には教祖も教義も経典もありません。人間だけが優秀だなどとは考えず、自然界すべてのものと共存し、森羅万象すべてを神様として崇拜する。人間同士もお互いに尊重し合いい、争いごとを起こさない。これが日本人の考え方です。ところが戦後、その考えを封じ込めようとする傾向があり、それがマナーを知らない若者、夢を持ってない若者という現実につながっています。今、国生み伝承の

地、淡路をベースに考え直してみてもどうでしょうか。

榎本 淡路は人間を取り戻せる土地です。これを、親子で味わうことです。親がなかなか変わらないのなら、子どもから変わって逆輸入するのでもいいでしょう。マンションという建物の中で暮らす核家族では、きちんと子どもが育まれません。私はしっかりした家長制度がある時代の家庭で育ちました。一つの文化だったと思います。そ

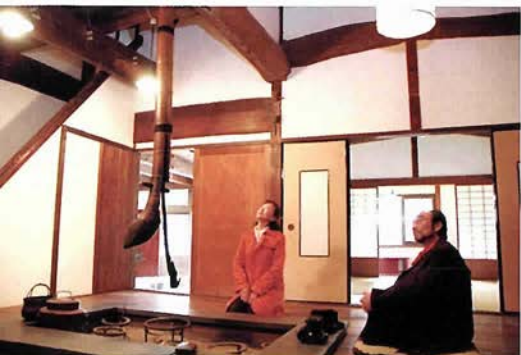
れを再発見できる風土が淡路にはあります。今の親世代に上手に利用してもらおうことです。

山田 私は今、薪を燃やし、煙を上げて瓦を焼く伝統的な土の達磨窯(だるまがま)を自宅の横に、土地の瓦屋さんと造っています。約40年振りの復活です。子どもたちは「また、おかしなこと始めとるわ」と見ていましたが、そのうち、「これ、何?」「ダルマガマや。うちの爺ちゃんがつてたわ」などと言いながら寄ってきました。興味があつたら、小学生でも瓦を焼きに来たらいいし、中学生になつたらトライやるウィークで来たらいいと思います。子どもたち皆、同じことやらんでもいい。勉強する子、サッカーする子、野球する子、瓦焼く子もいる。それでいいんところがいますか。そのうち一人でも、「やつぱり、瓦はダルマで焼かなあー」なんて言ってくれば最高です(笑)。組織や行政も大切ですが、「個」の力も大切。独自の価値観は子どもの頃から培わないと育ちません。

安全・安心、美味しい淡路の「食」を広めよう

—今後の淡路に望むことは？

武田 淡路の人には、地元に関心を持ち、良さを見つめ直す努力が必要でしょうね。新しいものを吸収する気持ちが先走っているようです。瓦のお話しでもありました。淡路の伝統的な家屋の良さを忘れていません。洲本は城下町らしさをすっかりなくしてしまいました。橋の開通で更に気持ちが新しいものへと向かってしまっているようです。海を隔て、少し距離を置いて状



匠家おかげ庵を訪れた新井満ご夫妻

況を見るという感覚を、子どもころから改めて育む必要があります。

本名 明石海峡大橋の開通は島民が長年、待ち望んでいました。バスで橋を渡れば、以前より安く行き来できるようになり、車でフェリーに乗るのを待つこともなくなりました。便利になったのに、淡路は単なる通過点になっていきます。豊かな自然や景

観に感謝し、それらを壊す開発をやめる時ではないでしょうか。確かに橋の通行料は、橋げたと同じように高い（笑）。それに見合う淡路島を作るといふ気迫を持つことです。この島にはかつて鉄道も走り、独自の新聞も発行されていきました。お殿様が居なくなつてからは、島民の力で盛り立ててきた島なのです。もつともつと誇りを持ちましょう！

山田 橋はできたけれど、「海を渡つて淡路にやつて来て、海を渡つて旅立つて行く」という気持ち

を忘れないこと。私は、できるだけ海からの風を感じ、それを他人にも伝えるようにしています。

人が減っている。いい位置にありながら、何故か若い人たちはどんどん出て行ってしまう。

武田 それはやはり、子どもたちが淡路の良さを知らないことが問題でしょうね。淡路は古代には天皇家に食材を提供する御食国でした。今、食の安全が問われていますが、淡路の安心でおいしい食にとつてはチャンスですよ。

榎本 食は「人」を「良く」すると書きます。私はお母さん方にお話ししているのですが、愛情を込めた良いものを食べさせれば、必ずいい子が育ちます。淡路は食の宝庫です。魚も肉もおいしい。野菜や花を買って帰ると都会の人にとっても喜んでもらえます。新鮮で安くて、美味しく、長持ちするので、「私も買に行きたい」言われます。都会では味わうことのできない地産地消の淡路島の魅力を発信しなくては！

本名 海あり、山あり、畑あり、淡路なら何でもできます。安全・安心、21世紀の豊かなライフスタイルに。ピッタリの風土ですね。